

風化させない

【第1章】

町外に出られない、町外から帰ることができない：想定外の暴風雨は、多くの帰宅困難者を生じさせた。外界から閉ざされ、恐怖と不安に包まれた夜。あの「孤独感」を忘れてはならない。

本町の孤立を告げる同報無線

21日午後から吹き荒れた台風15号は県内全域をかきまわした。本町と外とをつなぐ藤枝天竜線(笹間渡―身成)が崩土で通行止めになったのを皮切りに、島田川根線(川口―神座)では倒木、国道473号(久野脇―葛籠)では崩土、同路線の石風呂―抜里間は倒木、国道362号(富士城―久能尾)は倒木、同路線の旧春野町方面も路肩決壊などで通行止めになった。

大井川鐵道も全線運休していたため、住民が町外に出たり、町外から戻ってきたりといった交通手段が完全に絶たれてしまった。

道路の通行止めを告げる同報無線が町内に響き渡るたびに、役場に設置された災害対策本部には問い合わせ電話が殺到した。

「外にいる娘はどうすれば帰宅できるのか」今の放送がうまく聞き

取れなかったが、どういった内容なのか……。帰宅困難者やその家族の悲痛な声が、町の現状を物語っていた。

災害対策本部では、問い合わせの電話が入るたびに丁寧に応対するが、有効な解決手段はなく、返答に窮するばかりだ。国道・県道の道路管理は島田土木事務所川根支所。それも町外で起こった災害であり、本町ではその復旧の一報を待つことしかできなかった。

夜を迎え、雨も風も収まったが、外への交通手段は閉ざされたまま。多くの帰宅困難者の中には急ぎよ町外のホテルに宿をとった人もいた。島田市役所川根支所では、帰宅困難者を泊めるために庁舎を開放する緊急措置をとった。

この日の夜、町内のコンビニに出向くと弁当の棚が空っぽになっていた。食料品などを配送する車両が町内に入れないという理由に加え、どこにも出られないという「孤立感」が町中にまん延したためと思われた。

懸命な復旧作業により 数時間で孤立は解消された

本町孤立化の原因となった町外

の道路災害現場では、島田土木事務所川根支所指揮の下、夜を徹して復旧作業に追われていた。

藤枝天竜線(笹間渡―身成)の現場では、法面側のH鋼が何本か倒れ、その裏の土砂が次から次へと道路上に落ちてくるという状態が続いていた。重機で除去しても崩土は止まらず、危険性が高いとして夜間の復旧は断念。同時に進めていた国道473号(地名―抜里)の復旧を最優先とし、同路線

数カ所にわたる倒木の除去を急いだ。真つ暗な中での作業。法面上部の状態も目視では確認できないため、現場には見張りを立て、慎重に作業を進めたという。

473号は懸命な作業の末、同日深夜には車両通行が可能になった。本町の完全孤立化は、数時間で解消された。

孤立は解消されたが 不便な状態は数日続いた

主要道路である藤枝天竜線を利用する本町の住民などは復旧までの3日間、迂回路である国道473号(地名―抜里)を利用するしかなかった。この473号はすれ違い困難な箇所が多く、夕方などの帰宅ラッシュ時には、しばしば長い渋滞を引き起こした。

町が丸ごと孤立してしまうという本町始まって以来の事態は、住民にも、各関係機関にも、大きな不安感と危機感を与える出来事となった。



◀台風15号が過ぎ去った22日の午前中、国道473号(久野脇―葛籠)は夜を徹した復旧作業により通行が可能となっていた。しかし道路幅が狭く、まだ崩落の危険もあったため、明るい間は災害現場付近で交通整理が実施されていた。

22日午前中、藤枝天竜線(笹間渡―身成)では引き続き懸命な復旧作業が続けられていた。大型の重機が現場に入り、道路上の土砂やH鋼を除去。24日の午後には一通りの作業は完了し、開通した。



西角秀親ひでちかさん(徳山)

私は島田の会社に勤めています。台風が直撃した日は早めに仕事を切り上げたんですが、島田市川口まで来たら既に通行止めでした。役場に問い合わせると他のルートも通れないと言うので、急ぎよ島田市内の兄弟の家に泊めてもらいました。一晩だけで済みましたが、これが数日続いたらすごく困ったと思います。特に女性とかお子さんがいる人は、家に帰れない状態が続けばもっと困ってしまうでしょう。



小笠原美紀みきさん(徳山)

私は静岡市内の会社に勤めており、台風の日には午後3時に帰宅し始めました。既にJRは動いておらず、タクシーを使ったんですが、その途中で知り合いからメールがあり帰れないことを知りました。このため急ぎよ島田市内のホテルを予約して夜を明かしました。知り合いも同じホテルに泊まったのですが、これがもし一人だったら、どうして良いか分からず不安でたまらなかったと思います。こんな経験は初めてでしたから。